

子供向け動画について

こんにちは、松下です。

今回は、子供向け動画について解説していきます。

YouTubeでは、子供向け動画に対して様々な規制が設けられていますが、その規制について、これから詳しく解説してきます。

非常に重要な概念になりますので、最後までしっかりとご視聴ください。

それでは張り切って参りましょう！

まずは、こちらをご覧ください。

これは、YouTubeのガイドラインに掲載されている、子供向けコンテンツについての項目です。

この中に「チャンネルまたは動画の視聴者層を設定する」という項目があります。

「YouTube クリエイターは、今後制作する動画はもちろん、既存の動画についても子ども向けかどうかを設定しなければなりません。」

と書いてあります。

つまり、YouTubeでは「動画をアップロードする際に、その動画が子供向けなのか、または、そうでないかの設定を、必ずする必要がある」ということです。

子供向けかどうかの設定をするには、動画をアップロードする際に、このような設定項目が表示されるので、こちらに「はい」か「いいえ」にチェックを入れます。

たまに生徒さんから「自分の動画は子供向けなのかどうなのがよくわからないんですけど」という質問を受けるんですけど、よくわからないという方は、とりあえず「いいえ」にチェックを入れておいてください。

「いいえ」にチェックを入れても、その動画がYouTube側から「子供向け」と判断された場合、自動的に「はい」にチェックが入るようになるので、ご安心ください。

では、子供向け動画とは、具体的にどんな動画のことを言うのでしょうか？

まずは、こちらをご覧ください。

これは、YouTubeのガイドラインに掲載されている、子供向けコンテンツについての項目になりますが、この中に「子ども向けと見なされるコンテンツの例を以下に示します。」という項目があります。

1、子どもが動画の主な観聴者である。

2、子どもが主な観聴者ではないものの、子どもを観聴者として想定した俳優、キャラクター、アクティビティ、ゲーム、曲、物語、テーマが動画に含まれているため、子どもを対象としている。

と書かれています。

さらに、下のほうの「子供に該当する年齢」という項目を開くと、「米国では子どもの年齢は 13 歳未満と定義されています」と書かれています。

つまり、日本でも13歳未満の子供が見るであろうと思われる動画は、「子供向け動画」になるというわけです。

では、子供向け動画には、一体どのような制限があるのでしょうか？

先程のYouTubeガイドラインの下の方に、「子ども向けに制作されたコンテンツとして設定した場合の影響」という項目があるのでシェアしたいと思います。

この中に、「動画やライブ配信を子ども向けとして設定した場合」を開いてみると、

「観聴者設定で「子ども向け」であると指定すると、児童オンライン プライバシー保護法やその他の適用される法律に従い、特定の機能が制限されます。」

1、ホームで自動再生

2、カードまたは終了画面

3、動画の透かし

4、チャンネル メンバーシップ

5、コメント

6、寄付ボタン

7、YouTube Music での高評価と低評価

8、チャットまたは Live Chat Donations

9、グッズ紹介とチケット販売

10、通知ベル

11、パーソナライズド広告

12、ミニプレーヤーでの再生

13、Super Chat または Super Stickers

14、再生リストと 後で見る に保存

という14の項目が、子供向け動画では利用できなくなります。

では、その14の項目を一つ一つ見ていきましょう。

まず、1の「ホームで自動再生」ですが、こちらは、スマホアプリの機能で、ホーム画面のおすすめ動画が自動で再生される機能です。

2の「カードまたは終了画面」ですが、こちらは、動画の再生中または終了時に、チャンネル登録や次の動画を促す機能になります。

3の「動画の透かし」ですが、こちらは、動画右下のチャンネル登録アイコンで、4の「チャンネル メンバーシップ」ですが、こちらは、会員制のチャンネルにする機能になります。

5のコメントですが、こちらは動画の下にあるコメントのことです。

6の「寄付ボタン」は非営利団体へ寄付ができる機能になります。

7の「YouTubeミュージックでの高評価と低評価」は、YouTubeミュージックでの高評価と低評価で、8の「チャットまたはLive Chat Donations」は、ライブ配信の際に右に表示されるチャットのことを言います。

9の「グッズ紹介とチケット販売」は、動画の下の部分でグッズやチケットを販売できる機能で、10の「通知ベル」はチャンネル登録をすると、登録済みの横に表示される通知ベルの機能になります。

11の「パーソナライズド広告」ですが、こちらは別名ターゲティング広告ともいい、検索エンジンなどで、あらかじめ収集した視聴者の情報を元に出稿する広告のことを言います。

12の「ミニプレーヤーでの再生」は、動画を小さな窓で表示する機能で、13の「Super Chat または Super Stickers」は、視聴者が購入することで、チャット メッセージを目立たせることができる機能になります。

そして、最後の14の「再生リストと 後で見る に保存」は、視聴者が「お気に入りの再生リスト」に追加したり、「後で見る」に保存する機能になります。

以上が、子供向け動画の14の制限になりますが、子供向け動画には、この14の項目が利用できなくなるということになります。

この14項目の中でも、特に重要となる項目は、11の「パーソナライズド広告」です。

パーソナライズド広告が制限されてしまうと、通常の広告しか表示されなくなりますので、収益が通常の半分ほどに下がってしまうというデメリットがあります。

しかしこれで、子供向け動画は収益が下がりやすいという傾向にはあるんですけど、YouTubeには「YouTube Kids」という、子供向け専用のアプリがあるほど、子供向け動画というのは人気があるんですね。

しかも、YouTubeの人気チャンネルランキングでは、2019年から毎年、子供向けチャンネルがトップをキープしているんですね。それだけ、子供向け動画というのは人気がありますので、興味がある方はぜひ、チャレンジしてみてください。

以上が、子供向け動画についての解説でしたが、いかがだったでしょうか？

あなたがこれからYouTubeに子供向け動画をアップロードする際に
は、今回の内容をぜひ、参考にしてください。

というわけで、今回は以上になります。

最後までご視聴いただき、ありがとうございました。